

福岡市に於ける明倫會演說會狀況

- 一、日時 昭和八年九月十八日自午后七時至同九時半
- 二、會場 福岡市東町大博劇場
- 三、參會者 約八百名
- 四、開會の辭 福岡支部結成準備委員 松本 隆 次
- 五、演說の要旨

○切迫せる内政の革新 陸軍少將 二宮久二氏

吾國は有史以來大和魂に依つて日本精神が薰陶され來たが、今や共產主義等の危険思想が其の一部は轉向しても恐るべき潛行運動が行はれてゐる。此等の取締は根本原因に對してなされば駄目である。その原因は政黨政治の積弊である而して中央政界の積弊は地方自治体まで及んでゐる。農村問題の解決には米の生産制限よりも税制の改革が急務である。

政黨が黨利黨略のみに耽つたので五、一五事件が起つた。一方滿洲國に對しては國定したる守備隊を必要とし完全なる資源の開發のため日滿共同出資半官半民の事業を起すことが必要である。

ロンヤは國境に軍備を集中し飛行機六百臺を用意して居る、これはロンヤに對す、政策の不徹底からである。

今や思想、經濟、政治、國防共に急を告げて居るにも不拘吾々の遺憾とする處は元老重臣と稱せらるゝ人々が何をして居るかと云ふ事だ、明倫會は五大綱領を以て全國民と共に二年後に迫る有史以來の大國難に當る覺悟である。

○大平洋の將來 海軍少將 阪 巖 次 氏

聯盟脱退は昭和十年に完了すると共に南洋委任統治地問題が論議されるであらうが我が海上の生命線であるが故に日本は